

平成28年10月7日

「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」への意見
【「⑩（第2部 2.（10）家庭、技術・家庭）」に対する意見】

一般社団法人生命保険協会¹
（住所：東京都千代田区丸の内3-4-1）
（電話：03-3286-2693（担当：奥村））

高等学校家庭科の教育内容に関し、「少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築…等に対応」し、「生涯の生活を設計するための意思決定…に関する学習活動を充実する」、また、「家庭基礎（仮称）」に関し「生活における経済の計画などの実践力の定着を図るための学習活動を充実する」という方向性について賛同する。

上記の方向性を踏まえ、「生活設計」を学ぶ際の具体的な学習内容として、以下の内容を次期学習指導要領等へ反映頂きたいと考える。

現行の学習指導要領等では、「保険」については、生活設計を行う際の「生涯を見通した経済の管理や計画」における不測の事態に備えたりリスク管理の手段として学ぶこととなっている。一方、「社会保障」については、「人の一生と家族・家庭及び福祉」というテーマにおいて、幼児期から高齢期までの各ライフステージにおいてどのような福祉や社会的支援が必要かという観点で学ぶこととなっており、「保険」と「社会保障」は別々に学ぶことになっている。

「社会保障」については、平成24年8月成立の社会保障制度改革推進法において、制度改革の基本的な考え方として「自助、共助及び公助が最も適切に組み合わせられるよう留意」と規定されており、少子高齢化の急速な進展や国・地方財政等の状況を踏まえ、公的保障・私的保障が各役割を果たし、互いが補完し合って国民の生活保障を支えていく体制を構築することが重要となる。

今回の学習指導要領の改訂では「2030年の社会の在り方を見据えながらその先も見通した初等中等教育の在り方を示すこととされているが、2030年以降も少子高齢化が進んでいくことが予想される中、国民の生活保障において今まで以上に公私連携が必要となることを踏まえ、「生活設計」において保険を学ぶ際に、社会保障とも関連付けて学べるようにご検討頂きたい。また、「家庭総合（仮称）」については、「…主体的に生活を設計すること…を重視した内容構成とする」とした方向性が示されていることから、「家庭基礎（仮称）」と同様の取扱をして頂きたい。

また、教材や教育環境の充実として「家庭科、技術・家庭科の指導を充実するには、…民間企業…との連携について検討することが求められる」とされているが、生命保険業界等が提供する外部の教材や講師派遣についても適宜ご活用頂きたい。

以上

¹ 我が国で生命保険事業を行う全生命保険会社（平成28年9月末時点で41社）が加盟する一般社団法人であり、生命保険事業の健全な発達および信頼性の維持を図り、もって国民生活の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。本年4月15日、学校教育現場での保険教育機会の拡充に向けた提言をとりまとめた「保険教育推進に関する報告書」を公表した（<http://www.seiho.or.jp/activity/literacy/report/pdf/report.pdf>）。

ご参考

意見書で申し上げた「保険について学ぶ際に、社会保障制度とも関連付けて学ぶこと」については、「審議のまとめ」において整理された高等学校家庭科における育成すべき資質・能力の一覧表（下表）において、「⇒」の部分のとおり整理することができるのでご参考にして頂きたい。

三つの柱	生きて働く「知識・技能」の習得 (何を理解しているか、何ができるか)	未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成 (理解していること・できることをどう使うか)	学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)
高等学校 家庭科	自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解と技能 ○家族・家庭についての理解 ○乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等についての理解と技能 ○生涯の生活設計についての理解 ⇒ <u>少子高齢化に関する知識</u> ⇒ <u>生活設計に関する知識</u> ○各ライフステージに対応した衣食住についての理解と技能 ○生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立についての理解と技能 ⇒ <u>社会保障制度に関する知識</u> ⇒ <u>保険に関する知識（保険の役割、仕組み、種類等）</u>	家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、生涯を見通して課題を解決する力 ○家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定する力 ○生活課題について他の生活事象と関連付け、生涯を見通して多角的に捉え、解決策を構想する力 ⇒ <u>自助努力で将来に備える力</u> ⇒ <u>社会保障制度における自身の負担と給付内容を把握する力</u> ⇒ <u>将来リスクを想定する力</u> ○実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に表現する力 ○他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れ、計画・実践等について評価・改善する力	相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度 ○男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする態度 ○様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画しようとする態度 ○生活を楽しみ味わい、豊かさを創造しようとする態度 ○日本の生活文化を継承・創造しようとする態度 ○自己のライフスタイルの実現に向けて、将来の家庭生活や職業生活を見通して学習に取り組もうとする態度 ⇒ <u>生涯を見通した自己の生活設計を模索する態度</u>